

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	マーケットデザインとその社会実装による社会科学の革新
研究代表者	小島 武仁 (東京大学・大学院経済学研究科・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、ヒトやモノの最適な配分を実現するための理論の開発と、それを実際に応用して社会問題の解決を目指すものである。例えば、待機児童が発生する一方で、空きのある保育所が出たり、遠隔地の保育所に預けざるを得なくなったりする問題が発生しているが、本研究は、可能な限り入所の希望をかなえ、手続きの公平性や透明性を担保するなどの条件を満たす新たなプロトコル(手順)を考案し、実際の行政に実装して、待機児童問題を解決することを目指している。</p> <p>そのほか、研修医のマッチングや電波オークションなど幅広い分野への展開が予定されている。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>第 1 に、経済学だけではなく計算科学の世界的な第一級の研究者によるチームが、我が国の実情に合わせて、マッチング理論やオークション理論を高いレベルで発展させることが期待できる。第 2 に、待機児童問題など社会的な課題の解決策を理論的な基礎のある形で検討し、自治体などと連携して社会実装を行う点は、社会的な意義が大きい。第 3 に、本分野の若手研究者の育成にも力が注がれ、世界と競争できる拠点の構築につながる可能性がある。</p>